

## 地方における新たな検査機会の開発

### -医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）  
研究協力者：宮城京子、前田サオリ（琉球大学医学部附属病院看護部）、  
仲村秀太（琉球大学大学院医学研究科）

#### 研究要旨

研究者は、H28, 29 年度の本研究において MSM における HIV 陽性患者は、MSM のコントロール群に比して HIV 受検率が有意に低いことを示した。そこで受検の阻害要因を分析するために当年は HIV 陽性患者の受検行動および患者背景を検討した。

1. STI 有病率は AIDS が有意に高かった。
2. 無症候性キャリアーの受検動機は自主的が最も高かった。
3. 対象期間の HIV 患者の病期は AIDS が最も多く、次いで急性 HIV 感染症であり、有症状の患者が診断されていた。

今後は、無症候性の HIV 患者を効果的に受検行動に誘導するプログラムの開発が重要である。

#### A. 研究の目的

HIV 新規発生患者は東京、大阪、名古屋などの大都市では横ばいもしくは減少傾向にあるが、地方においては以前、増加傾向にある。

急性 HIV 感染症および AIDS は有症状なので医療機関を受診する機会があるので受検機会があるが、無症候性キャリアーの患者では症状による受検動機は望めず、この層に対する有効な受検動機を知ることが重要である。

#### B. 研究方法(表 1)

1. 直近 6 年間の新規患者の受検行動  
2018 年 12 月 15 日までの当院受診患者 342 人中下記の除外基準を満たした患者を除く 102 人。

##### 除外基準

1. 2012 年 12 月 31 日以前に診断された受診者 233 人（女性 17 人）
2. 女性 4 人
3. 男性異性間 1 人
4. elite controller 1 人
5. 母子感染男児 1 人

#### C. 研究結果

1. STI 有病率  
AIDS が有意に高かった（図 1）。一方、無症候性キャリアー群が STI 罹患率が最も低かった。

#### 2. 罹患した STI の種類

HIV 陽性判明、5 年以上前から梅毒が最も多く、帯状疱疹、尖圭コンジローマが続いた（表 2）。

#### 3. 対象期間の病期別割合

AIDS が最も多く、続いて急性 HIV 感染症であり、無症候性キャリアーは最も少なかった（図 2, 3）。

#### 4. HIV キャリアーの受検動機

自主的受検の動機が最も多く半数を占めていた。一方、医師の勧めは 26%であり、非自主的検査動機（術前、献血）と同数であった（図 4）。

#### D. 考察

##### 1. STI 有病率

STI 有病率が高い群では、HIV 検査の受検動機または医師の勧めなど受検機会が最も多いと思われる。そのため病期の進行度も早期群（急性または無症候性群）に集中すると推定していたが実際は AIDS 群が最も有病率が高いことが判明した。AIDS 群では生涯受検率も有意に低くこのような背景群が AIDS 群を形成している可能性が推察される。

無症候性キャリアー群は有症状の有無は受検の動機にならないために、検査を受けるメリットを効果的に伝えることが最も必要性がある群である。この群に対して訴求性のある広報

の開発が必要と考えられた。

## 2. 罹患した STI の種類

梅毒は HIV 陽性判明前のどの時期でも普遍的に認められ、少なくとも STI 判明時には患者は HIV 検査を意識すること、また医療者側は実施を提案する啓発が引き続き必要である。幸い、2019 年 1 月 1 日より、梅毒の届出時に HIV 検査実施の有無を調査する欄が追加されたのは朗報である。

## 3. 対象期間の病期別割合

無症候性キャリアーが病期として最も低かった。その理由として受検率の低い沖縄では、無症状の無症候性キャリアーが自主的検査の機会を持ちがたいことが窺える。

## 4. HIV キャリアーの受検動機

自主的受検の動機が最も多く半数を占めていた。本研究班の過去の調査研究 (2010 年度) より 15%程度改善している。一方、医師の勧めは 26%であり一般医師の関心は低いことが窺え、H29 年度に本研究では医師向けの HIV 検査手引きを作成して配布した。今後、このリーフレット配布の効果を検証していきたい。

## E. 結論

対象期間の HIV 患者の病期は AIDS が最も多く、次いで急性 HIV 感染症であり、有症状の患者が診断されていた。

今後は、無症候性の HIV 患者を効果的に受検行動に誘導するプログラムの開発が重要である。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.

2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

### 2. 学会発表

1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

2) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

3) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

4) 上薫, 健山正男, 金城武士, Parrott Gretchen, 富永大介, 高橋愛, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 藤田次郎: 日本人における、2 つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

5) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 佐藤かおり, 豊嶋崇徳, 佐々木 悟, 伊藤俊広, 林田庸総, 岡 慎一, 瀧永博之, 古賀道子, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 椎野禎一郎, 須藤弘二, 加藤真吾, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川 整, 加藤英明, 石ヶ坪良明, 中島秀明, 吉野友祐, 太田康男, 茂呂 寛, 渡邊珠代, 松田昌和, 重見 麗, 岩谷靖雅, 横幕能行, 渡邊 大, 小島洋子, 森 治代, 藤井輝久, 高田清式, 南 留美, 山本政弘, 松下修三, 健山正男, 藤田次郎, 杉浦 互, 吉村和久, 菊池正: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

6) 笠島志穂, 山城朋子, 健山正男, 仲村秀太, 山入端一貴, 兼久 梢, 新垣若子, 鍋谷大二郎, 藤田次郎: 上気道閉塞のリスクを有するカボジ肉腫の治療経験症例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

7) 上原 仁, 諸見牧子, 与那覇房子, 外間惟夫, 前田サオリ, 宮城京子, 石郷岡美穂, 大城市子, 辺士名優美子, 上 薫, 仲村秀太, 中村克徳, 健山正男, 藤田次郎: 腸瘻からの cART 投与において血中濃度測定を行い用量調整した一例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

8) 西原一秀, 平野惣大, 健山正男, 前田サオリ,

宮城京子, 藤田次郎, 新崎 彰 : 沖縄県歯科医療従事者の HIV/AIDS 患者歯科診療に対するアンケート調査の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

9) 健山正男 : 沖縄県における HIV の現況. 九州医師連合会 HIV 医療講演会 2018

10) 兼久 梢, 健山正男, 鍋谷大二郎, 喜友名朋, 新里 彰, 新垣若子, 宮城一也, 原永修作, 藤田次郎 : 免疫再構築に伴う病変増大が疑われた HIV 関連トキソプラズマ脳症の一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 357 2018

11) 原永修作, 西山直哉, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 健山正男, 藤田次郎 : 男性同性愛者に発症し化膿性扁桃炎として診断・治療された扁桃梅毒の 1 例と case review. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 284 2018

12) 石原美紀, 健山正男, 渡嘉敷良乃, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 藤田次郎 : HIV 新規診断症例においてインテグラーゼ領域に P145S を検出した一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 375 2018

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

##### 1. 特許取得

無し

##### 2. 実用新案登録

無し

##### 3. その他

無し

表 1. 対象患者

2018/12/15までの当院受診患者342人中、  
下記の除外基準を満たした患者を除く102人

除外基準

1. 2012/12/31以前に診断された受診者 233人 (女性17人)
2. 女性 4人
3. 男性異性間 1人
4. elite controller 1人
5. 母子感染男児 1人

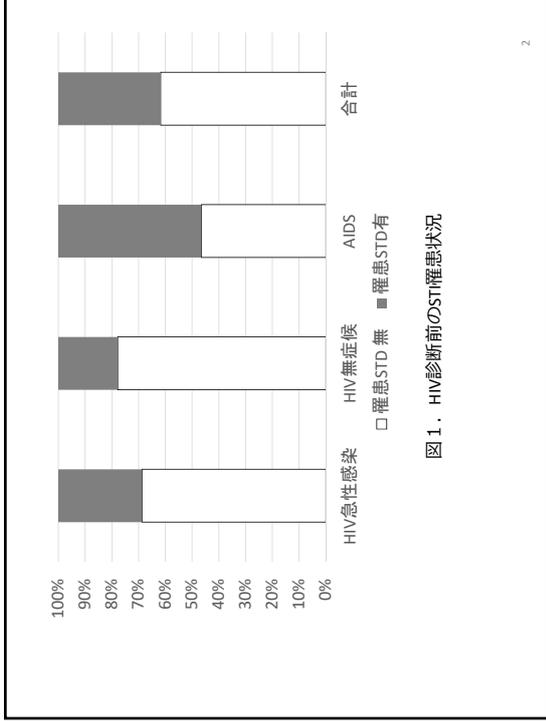


図 1. HIV診断前のSTI罹患状況

表 2. STI罹患の年次状況

	梅毒	B型肝炎	A型肝炎	帯状疱疹	尖圭コンジ ローム	アムニオ 赤痢	淋菌
陽性判明前 1年以内	1			1			
陽性判明前 1年	3			2		2	
陽性判明前 2年	2			3			
陽性判明前 3年	2			1	1		
陽性判明前 4年	1						
陽性判明前 5年以上	10	2	1	5	2		1
同時判明	4	2				2	

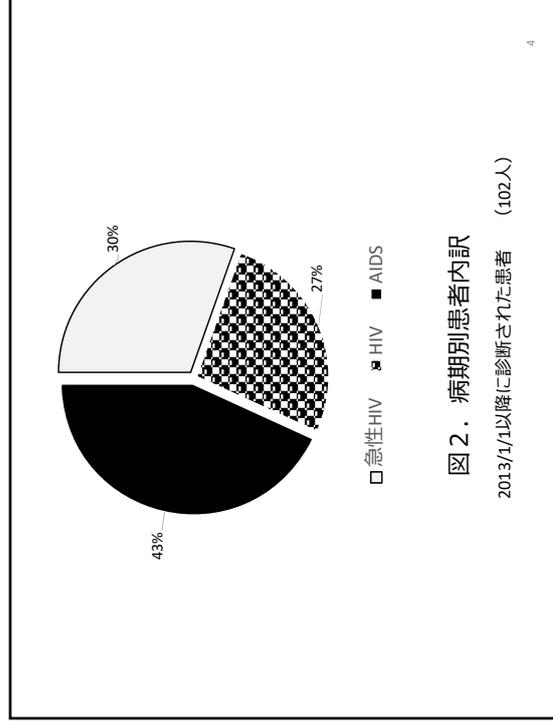


図 2. 病期別患者内訳

2013/1/1以降に診断された患者 (102人)

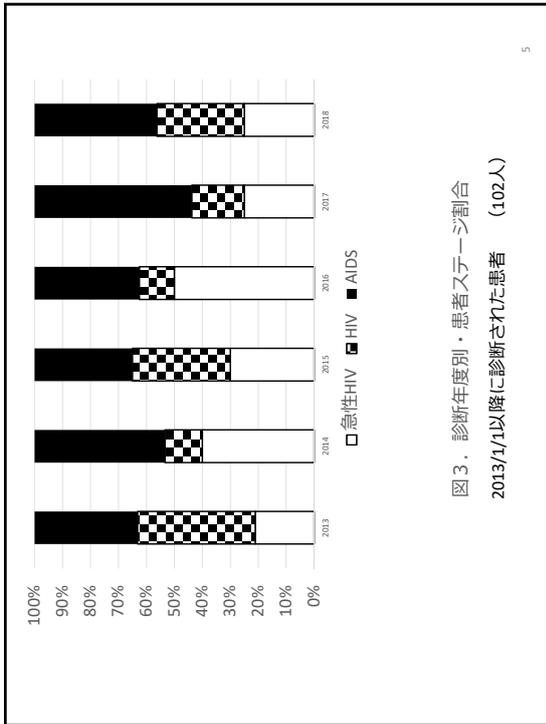


図3. 診断年度別・患者ステージ割合  
2013/1/1以降に診断された患者 (102人)

5

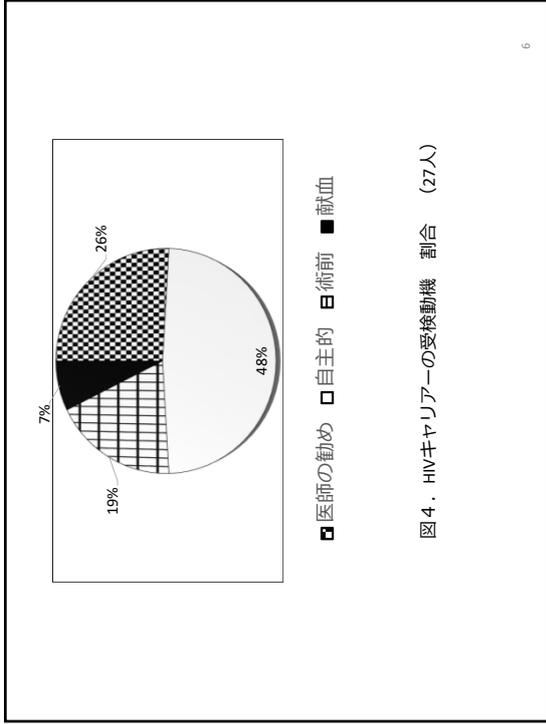


図4. HIVキャリアーの受検動機 割合 (27人)

6

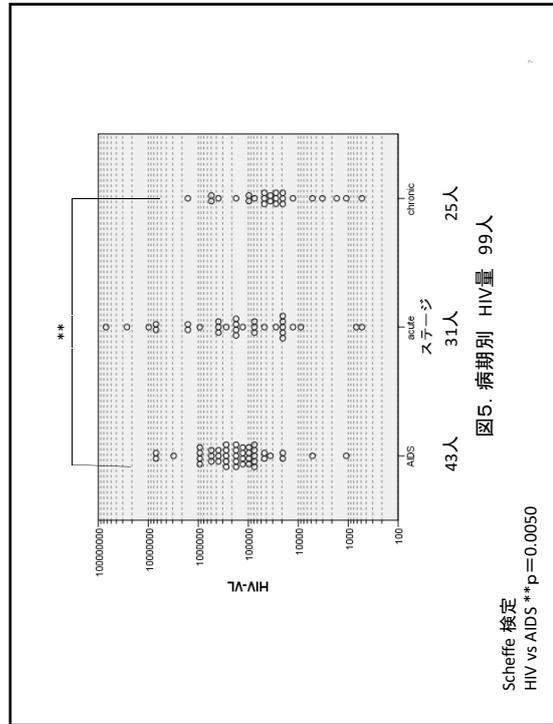


図5. 病期別 HIV量 99人

7